

日本医師会長 横倉 義武様 祝辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。国際医療福祉大学医学部入学式・開設記念式典の開催にあたりまして、日本医師会を代表して一言お祝いを申し上げます。

国際医療福祉大学は、平成7年に開学されて以来、「病気や障害を持つ人も、健常な人も、お互いを認め合って暮らせる共に生きる社会の実現」を建学の精神として、これまで5キャンパス・8学部・21学科を擁する医療福祉の総合大学として、高度な知識と技能を兼ね備えた医療人を多数輩出されてきました。そしてこのたび新たに医学部が新設され、本日ここにその第1期生となる学生の皆さんを迎え、入学式・開設記念式典を迎えることとなりました。第1期生の皆さん、また、ご家族の皆さん、大学関係者の皆様に対しまして、心よりお慶びを申し上げます。

さて、戦後目覚ましい発展を遂げてきたわが国は、今、世界に先立つ超高齢社会を迎え、世界中からその対応が注目されております。とりわけ医療においては、医療と介護の提供体制の見直しや、地域包括ケアシステムの構築など、国を挙げて取り組んでいるところであります。その一方で、現代社会は情報通信技術をはじめとする科学技術の発展を背景に、価値観の多様化とグローバル化が進み、医療や経済活動における国境は低くなり、世界規模で解決すべき課題も増えています。

しかし、世界がどのように変化しても、常に病気の方がいる以上、医療は必要とされ続け、医師が重要な役割を果たしていくことに変わりはありません。日本近代医学の父と言われたオランダ人医師、ポンペは、その著書の中で、「医師は、自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。」と書き残しました。現代にも通じる、医師の本質を貫いた名言であります。

加えて、価値観が多様化する現代においては、知識や技術だけでなく、患者さんの信頼を得られる、豊かな人間性も医師に求められる重要な要素であります。科学技術の進歩による先進的な医療は、生命にかかわる諸問題も、我々医師に提起しております。こうした中で、国際医療福祉大学医学部では、グローバル化時代に対応可能な医学教育によって、国内外で活躍できる医師を養成されると伺っております。学生の皆さんには、医学知識や医療技術の修得はもちろんのこと、生命あるものへの慈愛と、他者への思いやりの精神、すなわち、高度な医療倫理を兼ね備えた医師をめざして、日々研鑽を積まれることをご期待申し上げます。

これからの国際医療福祉大学医学部における歴史の第1ページを綴っていくのが、第1期生の皆様であります。そして、皆様方の努力の足跡が伝統となります。今日のこの日の喜びを胸に、生涯にわたって邁進されますとともに、第1期生の皆さん、そしてそれを支える国際医療福祉大学の関係者の皆さんの、ご健勝・ご活躍を心よりご祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

本日はおめでとうございます。